

User Interview

(株)横山基礎工事 取締役社長室室長 孝本 英俊 氏

今回は、数多くの難工事を経験・克服され、様々な施工機械を駆使、岩盤削孔技術の先駆者として活躍されている株横山基礎工事の取締役社長室室長・孝本氏を訪ねてインタビューを行いました。

記者：貴社の岩盤削孔技術の概要をお聞かせ下さい。

孝本：当社は、「NETIS」登録工法を中心に環境対策型工法の営業展開を行っております。低騒音低振動対策機によるスクリュードドライバー・マルチドライバー・A-CR工法や鋼管矢板中掘圧入でのカプセルホウ・パイラ工法、勿論、硬質岩盤削孔で多くのバリエーションをもつダウンザホールハンマ工法や、LIBRA橋、SEP早都などを用いた重仮設工事から基礎工までのトータルソリューションをご提案しております。

記者：施工計画の立案はどのようにされていますか。

孝本：施工に必要な資機材の能力検討と機種を選定、配置計画や詳細手順を反映した計画書の作成を行っております。

記者：工事成約後は、実施に向けてどのようにされていますか。また、どのような管理体制でしょうか。

孝本：関係者による社内の事前協議は勿論のことですが、当社では工事管理部を中心に担当営業、工事計画担当、機材担当、労務安全担当、元請けと、一同に介して現場状況の確認や施工上の問題点、対策などを協議するため着手前検討会を工事現場毎に行っております。工程管理、進捗状況などは工事管理部が担当し、リアルタイムに現場の問題に対応しております。

記者：貴社独自開発の機械やLIBRA橋などの資機材も相当量保有されていると思いますが、メンテナンスはどのようにされていますか。

孝本：社長の念願でもあった整備工場を、一昨年一年間を掛

けて本社の近くに重建設機械整備ラインと仮設鋼材のケレン・塗装工程などを配した広大なメンテナンス設備を充実させ、専属整備上による社内規準に準拠した独自の点検と記録を蓄積させながら対応しております。

記者：情報伝達や社員教育はどのようにされていますか。

孝本：各部署における日々毎の朝礼実施、また毎月、本社・工場各部門合同で朝礼を行い、全く異なった環境で働く社員が集まり意見交換し、今、会社で起こっていることを肌で共有できるように努めています。

記者：今後の展望について

孝本：現在の当社があるのは、社長をはじめ先輩諸氏が継続した技術開発を行われ、その成果を現場で実践することによりお客様のニーズに確実に対応してこられたことに尽きると思います。これから先も「時代や世の中が要求していることは何か」を敏感にとらえ、岩盤削孔のバイオニアとしてのプライドを忘れず、工事会社としてやらなければならないことを確実にやり遂げていくことが大事であると考えます。そのためには若手社員が早く技術を身につけて先輩諸氏を「追い越せるよう・任されるよう」努力していかなければならないと思います。社内では指導されている常に問題意識を持つこと「何故」と「ならばどうする」を忘れず、「できない」ではなく「どうすればできるか」を考えて行動し、実行する。厳しいこの時代に生き残れる強い会社の体制作りに社員が一丸となれるよう努力していきたいと考えております。

記者：もうすぐ新しい年を迎えようとしております。新しい発見と望まれる施工スタイルの追求に対し、貴社のますますのご活躍をお祈り致します。

本日は、お忙しいところありがとうございました。

(株)横山基礎工事 大野 剛



孝本 英俊 氏

岩盤削孔工事施工事例の紹介

リーダ式ケーシング回転掘削工法(BG工法)による 既存構造物(地下躯体)撤去工事

1. 工事概要

新築構造物を建築するにあたり、柱列式中連続壁(SMW)を造成する。造成にあたり旧建物の躯体が支障となり施工ができない部分の躯体撤去工事である。

施工スペースとしては、7.0m×5.5mの全面構台である。そのヤード内でBG-1.4×1台、BG-2.8×2台、全周回転オールケーシング機×2台施工した。施工区分は、削孔芯が敷地境界に近い部分の施工をBG工法と設定した。

- ① 工事場所：東京都港区元赤坂一丁目
- ② 企業者：鹿島建設株式会社
- ③ 発注者：鹿島建設株式会社
- ④ 施工時期：平成20年10月～平成21年1月
- ⑤ 工事内容：SMW造成に伴う障害部(旧躯体)撤去

工事数量表(計画数量)

工種	杭径	削孔長	数量
BG	φ1000	L=6.4m~12.0m	11本
BG	φ1200	L=6.4m~18.4m	146本
全旋回	φ1500	L=13.5m	36本
全旋回	φ2000	L=6.4m~18.4m	14本

2. 概要図及び施工状況写真



施工全景